

肥土山農村歌舞伎

肥土山農村歌舞伎は、水不足に対応するための蛙子池の完成を記念して、劇場公演のための小さな掘っ立て小屋が初めて建てられたことにより、1686年に始まったと言われています。この建物は、四国の舞台の代表例です。

現在の舞台は、台風の影響を受け壊滅したかつての建物を、少し大きくして4年後の1900年に建てられました。本劇場には、歌舞伎の舞台特有の装置がすべて備わっています。花道、廻り舞台、リフト、奈落、葡萄棚、天井、更衣室、緑屋、主役の更衣室などです。